

我が家の「家読紹介」

～幸房小学校編～



読み聞かせをしている間に子供たちが眠りにつく、という可愛い姿をみたくて「家読」を始めました。実際は最後まで起きていて感想を言って寝ますが、お話に引き込まれていく子供達の夢中さが伝わり嬉しくなります。娘が作った標語「本が好き いろんな私に なれるから」を胸にこれからも素敵な「家読」時間を続けたいです。 《正田さん》



我が家の「家読」は幼稚園で購読していた絵本の読み聞かせから始まりました。好きな本があって5年生になってもなかなか手放せません。今は、家族で図書館行にき、時には同じ本を読んで親子のコミュニケーションを深めています。

《廣井さん》



我が家の「家読紹介」

～瑞穂中学校編～



小さい頃は読み聞かせもしましたが、成長するにつれ、個々の好みの本を読むようになりました。家読は、「百人一首」を題材にした漫画から始まりました。この漫画のおかげで、日本の古典文学や歴史に家族共通の興味を持ち始め、今では、「百人一首」、カルタに夢中です。また、個々に読んだ本の感想を話す団樂の場では様々な見方、考え方にふれ価値観を共有したり家族の絆を深められました。《相澤さん》



我が家の「家読」は小学校の宿題で国語の教科書を音読してサインするところから始まりました。本を読んで想像力を高めてもらいたいという思いがありますが、成長するにつれてアニメや漫画に興味を示してしまいます。できるだけ同じ本を読んで感想を話し合うことをしたいけれど、時間的に厳しくなってきました。そこで、短時間で読める絵本を一緒に読み返すと新しい発見や感動があります。震災の時、小さな子どもたちに年上の子供たちが絵本を読んでいるシーンがありました。中学生になって、年下の子供たちに絵本を読んであげることができる子供になってもらいたいと願っています。《柳瀬さん》

